

うみっこ通信

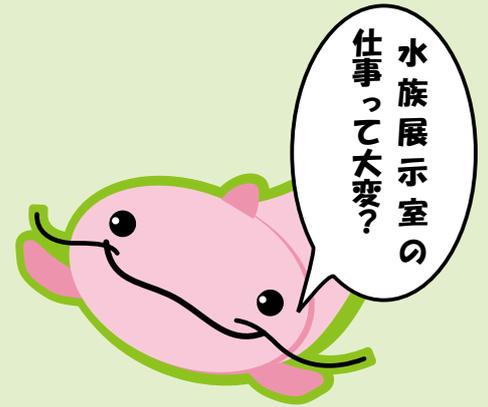


滋賀県立
琵琶湖博物館

LAKE BIWA MUSEUM



いそだ たかね
磯田 能年 主任技師



魚を飼っている水そう (水族バックヤード)

ニゴロブナの話と 水族展示室の紹介

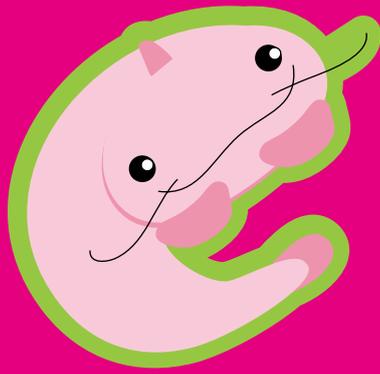
今回登場する磯田さんは、水産試験場から琵琶湖博物館にきました。磯田さんのように他のところから博物館にきた職員は、5名います。その中には小学校や中学校の先生もいます。このように様々な分野の人たちが仕事をしながら、琵琶湖博物館をつくっています。磯田さんは水産試験場では、琵琶湖にしかないニゴロブナを増やすためにはどうすればよいか、という仕事をしていました。

博物館にきてからは、「田んぼから出たニゴロブナの子供はどこに行くのか」という研究をしています。今回はこの「ニゴロブナ」の話と、博物館の中で子ども達に人気のある水族展示室の紹介をします。

2011.3
No.5

目次

- 1 今回の特集
- 2 ニゴロブナってどんなさかな?
- 3 水族展示室の紹介
- 4 うみっこトピックス「博物館に学校の先生がいるんだよ！」



ニゴロブナって どんなさかな？

ニゴロブナってどんなさかな？

ニゴロブナは琵琶湖だけにすんでいるさかなです。滋賀県の名産品のふなずし(写真1)の材料として使われています。



【写真1】ふなずし

ニゴロブナの生活を教えてください

親は琵琶湖の沖合の深いところにいます。

春：湖岸の浅いヨシ帯などに寄ってきて卵を産む(写真2)。

春～夏：生まれた赤ちゃんは浅いところで過ごす。

秋～冬：成長したニゴロブナの子供(写真3)は琵琶湖の深いところへ移動する。
生まれて3年ぐらいで、卵を産める大きさになります。



【写真2】ニゴロブナの卵

一年にどれくらい獲れますか？

多いときは600～800トンとれていましたが、現在では30トンくらいにまで減っています。

どうして減ったのですか？

産卵する場所が開発などによって減ってしまったり、オオクチバスなどの外来魚に食べられたりして、昭和60年ごろから急激に減ってしまいました。



【写真3】ニゴロブナの子供

ニゴロブナを増やすために 何かしていますか？



【写真4】子どもを湖にはなす

ニゴロブナをふやすために、主に以下のようなことをしています。

- 1 産卵する場所になるヨシ帯を作る。
- 2 子どもを育てて湖にはなす(写真4)。
- 3 小さなニゴロブナを獲らないようにする。
- 4 外来魚をへらす。

最近はこのような取組みのおかげで、少し増えてきたようです。



すいぞくてんじしつ 水族展示室の

紹介

水族展示室には、琵琶湖や世界のさかながたくさんいるよ！



【写真1】チョウザメのえさやり

博物館にはなぜさかながいるの？

湖にすむ生き物の中には、人の生活と深い関わりをもつものがあります。そこで、展示室「湖の環境と人びとの暮らし」の一部として、琵琶湖にすむさかなたちを中心に、淡水（真水）の生き物を展示しています。

どんな生き物がいるの？

琵琶湖を中心に日本の淡水にすむさかなや、世界の代表的な湖のさかながいます。さかなだけでなく、貝類、甲殻類（エビ、カニ）、水生昆虫（ゲンゴロウ、タガメなど）、両生類（カエル、オオサンショウウオなど）、は虫類（カメ）、水鳥もいます。



【写真2】保護増殖センター

生き物の世話はどんなことをしているの？

えさをあげたり（写真1）、水槽の掃除や水替えなど、やることがたくさんあります。さかなたちも病気になったり、ケガをすることがあるので、毎日注意深く観察しています。

きちょう 貴重なさかながいるって聞きました。

日本の淡水魚の中には、数が減ってなかなか見ることができなくなってしまった種類がたくさんいます。博物館の保護増殖センター（写真2）では、このようなさかなたちを増やす取り組みをしています。

水族展示室の見どころは？

日本最大のナマズで琵琶湖だけにすんでいるビワコオオナマズ（写真3）、淡水の水族展示としては日本最大級のトンネル水槽（写真4）など、見どころがたくさんあります。

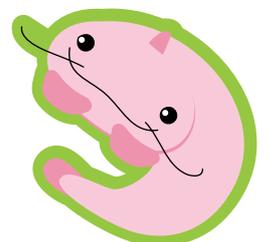


【写真3】ビワコオオナマズ

ぜひ、
見に来てね！



【写真4】トンネル水槽



うみっこ トピックス

おおより ひさと いいずみ たつや
大依 久人 主査・飯住 達也 主任主事（交流担当）

「博物館に学校の先生が いるんだよ！」



みんな、
知ってたかな？

琵琶湖博物館では、小学校と中学校の先生が一人ずつお仕事をしています。なぜ、博物館に学校の先生がいるのかな？？？

それは、とてもたくさん子どもたちが、校外学習などで博物館に来てくれるからです。

どんなお仕事をしているかというと…



写真3 教員研修（プランクトンの観察）

1. 校外学習の打ち合わせ

校外学習などでみんなが博物館に行ったときにどんな活動をするか、みんなの学校の先生と打ち合わせをします。

2. 体験学習

みんなといっしょにヨシ笛や化石のレプリカ（写真1）を作ったり、新しい体験学習のプログラムを考えたりします。また毎月第2・第4土曜日には、「琵琶湖博物館わくわく探検隊（写真2）」というイベントをやっています。



写真1 体験学習
（化石のレプリカづくり）

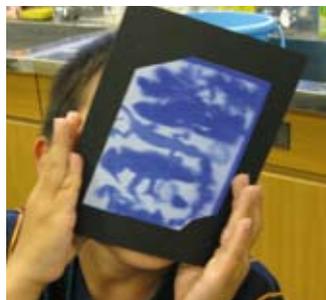


写真2 体験学習
（わくわく探検隊
青写真づくり）

3. 質問へのお返事

みんなが送ってくれるいろんな質問にお返事します。琵琶湖のこと、生き物のこと、人々の暮らしのことについての質問が多いです。

4. 教員研修

みんなの学校の先生方の研修会をお手伝いします。プランクトンの観察（写真5）や魚の解剖など、みんなの先生方もいろんな勉強をしているんですよ。

また、博物館にはいろんな展示がたくさんあります。展示を見て、発見したり、原因を考えたり、想像をふくらませたりして、楽しい時間をすごしてください。何度でも来てね！

とても楽しいイベントだよ。おうちの
人といっしょにぜひ来てね！

